

一般的な GCMS 装置の停止フロー^{*1}

-加熱部及び検出器をオフ-

↓ cooldown 用メソッドの読み込み^{*2}

-ベント実行-

↓ 真空制御画面にて「ベント」実行^{*3}

-加熱部の冷却・ターボポンプ*の停止を待つ-

↓

-コントロールソフトの終了-

↓

-MS の電源をオフ-

↓

-GC の電源をオフ-

↓

-使用ガスの元栓を閉じる-

↓ ガスの元栓を閉じる 使用ガス発生装置の電源オフ^{*4} (ご使用の場合)

-PC の電源をオフ-

↓

-カラムの取り外し^{*5}-

注入口・MS インターフェースにプラグ取り付け カラム両端にキャップ



Agilent Technologies

- *1：こちらのフローは一般的な GC のみのシステムを想定しています。GC 以外に前処理装置、外部サンプラーをお使いの場合には、各装置のマニュアルを参照ください。またお客様 SOP にて手順を決められている場合にはそちらに従って操作してください。
- *2：cooldown 用メソッドは最初に作成いただく必要があります。オープン温度を 40°C、その他の加熱部をヒーターオフの設定で作成いただくことをお勧めします。カラム流量は分析メソッドと同じ設定で構いません
- *3：「ベント」操作は、イオン源・四重極の温度を下げてターボポンプを止めるまでとなります。大気開放はされません（GCQTOF の場合にはドライガスをフライトチューブへ流すまで実施するので大気開放を含みます）
- *4：各装置の停止手順は、各取扱手順に従ってください。
- *5：翌日使用など短期間の停止の場合には必ずしも取り外しは必要ではありません